

令和4年度 御料館ミニ企画展

# 木曾山に生きる 昭和の暮らしから

会期 2022年 11月12日(土)~2023年 1月29日(日)

毎週月曜日休館（月曜が祝日の場合は翌日）、年末年始休館（12/28-1/5）



木曾町 昭和後期  
雪ぞりを使って木材を運ぶ

林業・材木運材  
木曾の森林鉄道  
ふもとの村の暮らしと人びとの記憶。  
山の神  
刈り干し…  
木曾山の暮らしの有り様、人々の思いを写真などで顧みます。

## ふもとの村

街道から逸れて、御嶽のふもとに息づく開田、三岳、王滝の村むらは標高が800から1200メートルに達する高冷地である。

人びとは複雑に入り組んだ谷間にそれぞれ小集落をなして生活を営んでいる。むかしは、木曾谷の中心地である木曾福島への交通も不便で、いずれも峠越えの道を歩かなければならなかった。バスが通るようになっても森林鉄道を唯一の交通機関としなければならない人もいた…（以下略）

（澤頭修自 1985年『新信濃写真風土記二 御嶽のふもとで』より抜粋）



木曾森林鉄道 昭和40年代

会場

# 御料館

高校生による近世尾張藩研究の紹介

令和4年度全国高等学校社会科学・郷土研究発表大会 優秀賞を受賞した岐阜県立加納高等学校地域研究部「近世岐阜町を作った材木商の探究」と「木曾の林政改革」等についての研究成果を展示します！

旧帝室林野局木曾支局庁舎

住所 〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島 5471-1

開館 9:00~17:00（12月から10:00~16:00） 入場無料

主催：木曾町教育委員会 生涯学習課

問い合わせ：(0264) 23-2070

協力：木曾山林資料館

佐幸信介氏（日本大学・社会学）

澤頭修自氏（郷土史家・写真家）

三浦征弘氏（森林鉄道「やまばと号」元運転手）

掲載写真：澤頭修自氏 撮影